

平成 23 年
9月11日執行
花巻選挙区

岩手県議会議員選挙選挙公報

岩手県選挙
管理委員会

木村幸弘の基本政策

- ◇生命・健康・福祉を守る
 - 保健行政の一体化で地域医療施策の充実
 - 高齢者介護や施設・保育行政の充実
- ◇雇用・暮らしを守る
 - 地場企業育成と企業誘致で雇用拡大を図る。
 - 雇用と生活相談・支援事業の強化
- ◇農業・産業支援をすすめる
 - TPPに反対する。
 - 農業基盤の確立とエサ米、アルコール化、米粉活用策で農産物の付加価値を高める6次産業の推進をはかる。
 - 地場中小企業の技術力向上、人材育成の支援
- ◇次世代を担う子どもたちの健全な育成と、ゆとりある教育の環境整備
- ◆大震災津波からの復旧・復興の促進
- ◆脱原発(放射能対策強化)、再生可能自然エネルギー政策の推進

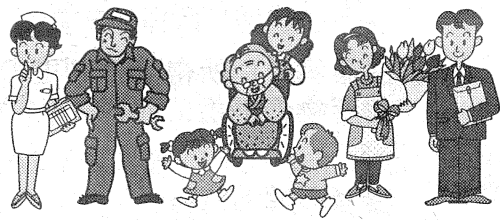
生命と雇用・生活再建優先の復興
いま、県政に求められているのは、東日本大震災津波から一日一刻も早い復旧・復興です。そして、福島第一原発事故による放射能被害への速やかな対応と対策です。
私は、復興計画は、先ず「職・住」が何よりも優先されるべきものであり「生活再建」と「なにより再生」の具体化とそのための財政出動に全力を尽くします。
脱原発・安全安心の自然エネルギーへ
原発事故による放射能汚染が、日々拡大しています。岩手のブランド牛「前沢牛」も出荷停止となっています。今後は米、リンゴ等の農産物への汚染、さらには三陸の魚貝類への汚染拡大が危惧されています。さらに、人体、特に子どもたちへの放射能被害が心配です。
私は、今回の震災を教訓に、原発に頼らない、安全安心の自然エネルギーへの政策転換を訴えていきます。
議会の民主化を
いまの県政は、国政同様に偏った勢力に支配され、馴れ合いと情性、議論も不十分なまま多数の力によって、当局の提案が押し通されています。私は、県民の皆さんと向き合い、社会の道理や、いのちを尊重した県政運営をめざします。

プロフィール

- ◇1959年(昭和34年)12月20日生まれ
- ◇花巻市山の神826-2
- ◇家族：妻、妻の両親、子ども三人は自立
- 〔経歴〕
 - ◇岩手県立黒沢尻工業高校卒業
 - ◇国鉄盛岡管理局北上保健区入職
 - ◇花巻地方労センタ―青年部長、事務局次長(専従)
 - ◇花巻市議会議員4期
 - ◇中央みのり幼稚園PTA会長
 - ◇花巻市立南城小学校・中学校PTA会長
- 〔主な役職〕
 - ◇岩手県議会議員1期 総務常任委員
 - ◇民主党花巻総支部代表
 - ◇岩手地方自治研究センター専任研究員
 - ◇岩手中部政策センター理事
 - ◇自治労岩手県本部自治研推進委員会研究員
 - ◇花巻花南地区体育協会理事
 - ◇学校法人花北みのり学園評議員
 - ◇花巻市相模協会会長



木村幸弘
社民党公認(51歳)



おばらこうじ
小原康二
地域政党いわて推薦候補(四十三歳)

情熱疾風

私の政治信条は、まじめに働く者が報われる政治を確立させることです。

- 一、住民の思いや声を県政に届け「住民目線」の政治を目指します。
- 一、わかり易い政治、スピードとメリハリのある政治を目指します。
- 一、岩手を担う子供たちのために、子育て世代の我々が立ち上り、胸を張って受け渡せる故郷をつくる政治を目指します。
- 一、震災復興に情熱と若さと実行力を傾注し「明るい岩手」「元気な岩手」づくりを目指します。

◎取り組みたいこと

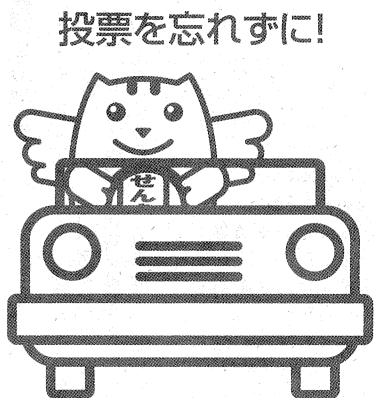
- 一、一次産業を食える生業とさせる仕組作りをしたい。
岩手の恵まれた大自然と広大な土地で一次産業を真の生業に育て、ここに多くの雇用を生み出せる仕組み作りをしたい。
- 一、家族の犠牲にだけ頼る在宅介護からの脱却を図りたい。
時間の融通も効く「家」を拠点に働ける一次産業を生業に育てることによる在宅介護を増やし、介護する側も報われる仕組作りをしたい。
- 一、学校と地域との連携強化を図りたい。
小中学校に地域本部を設置し、学校、地域、親の目で子供達を育てる。「官」色の強い学校から、真の「公」立校にする。
地域本部を中心に伝統芸能の継承や各学校の風土、文化、歴史を後世に伝えていく。

〔経歴〕 ささま幼稚園→笹間第一小学校→西南中学校→花北商業高等学校→東京海上日動火災保険代理店。
笹間第一小学校PTA会長、花巻教育振興審議会委員。

9月11日(日)は、投票日です。

投票時間は、午前7時から午後8時までです。

ただし、一部の投票所ではこの時間と異なる場合がありますので、入場券・市町村広報などで確認されるか又は市町村の選挙管理委員会にお問い合わせください。



投票を忘れずに!